

看護専門科目	臨床応用看護学					
看護学科	必修	2単位	実習	平成30年度	通期	4年次
科目名	小児看護学実習Ⅱ（治療過程にある子どもと看護） Pediatric Nursing Practicum II (Nursing for Children Receiving Medical Care)					
担当教員	◎溝口幸枝 石橋かず代 橘美保子 井上莉沙					
目的	小児看護学概論、小児看護学実践論、小児看護学実習Ⅰで学んだ知識・技術・態度を前提にあらゆる健康レベルにある子どもや障害および成長・発達過程にある子どもとその家族への個別的な看護実践の基礎を習得する。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入院生活を送る子どもとその家族の全体像を捉え、状況に応じた看護計画を立案し、実施することができる。</li> <li>2. 子どもの病気や障害が家族に及ぼす影響を理解し、必要な支援について考えることができる。</li> <li>3. 小児科外来の環境と受診する子どもと家族の特徴が理解できる。</li> <li>4. 外来診療を受ける子どもと家族に必要な看護の役割を説明することが出来る。</li> <li>5. 障害のある子どもの生活や教育環境を知り、必要な関わりが理解できる。</li> <li>6. 子どもと家族を支える地域サポートシステムの重要性について考えることができる。</li> <li>7. 小児看護を実践する者として相応しい姿勢で行動することができる。</li> </ol>					
他科目との関連	小児看護学概論 小児看護学実践論Ⅰ 小児看護学実践論Ⅱ 小児看護学実践論Ⅲ 小児看護学実習Ⅰ 発達とライフサイクル 母性看護学 家族社会学 身体論Ⅰ 身体論Ⅱ 心理学 生命と芸術実践演習					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	記録等	記録等の評価				1
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 奈良間美保他 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院</li> <li>2. 奈良間美保他 小児臨床看護各論 医学書院</li> </ol>					
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二宮敬子, 今野美紀編集:小児看護学概論, 南江堂</li> <li>○今野美紀, 二宮敬子編集:小児看護技術, 南江堂</li> <li>○松尾宣武, 濱中喜代編集:小児保健・健康障害をもつ小児の看護, メヂカルフレンド社</li> <li>○中野綾美編集:ナーシング・グラフィカ小児看護学③小児の疾患と看護, メディカ出版</li> <li>○石黒彩子, 浅野みどり編集:発達段階からみた小児看護過程+病態関連図第2版, 医学書院</li> <li>○荃津智子編集:発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程, 医歯薬出版</li> <li>○鴨下重彦, 柳澤正義監修:子どもの病気の地図帳, 講談社</li> </ul>					
備考 (受講上注意、事前学習等)	<p>既習した小児関連科目の復習を十分にして実習に臨むこと。 発達段階に応じた日常生活への援助項目(食事・排泄・睡眠・衣服の着脱・清潔)や形態・機能・心理・社会的な特徴について事前学習しておく。 小児期の診療(治療、処置、検査、診察)上、必要な看護援助及び観察に必要な看護技術について事前学習しておく。</p>					